ひとり親家庭の特別医療費受給資格証更新手続きについて

ひとり親家庭の特別医療費受給資格証をお持ちの人は、有効期限が6月30日となっていますの で、早めに更新手続きをしてください。また、現在受給資格証を持っていない人でも、以下の要 件をすべて満たす人は対象となる場合がありますので、お問い合わせください。

受給資格要件(次の2つの要件を満たす人)

- 1. ひとり親家庭で、18歳に達する年度末までの子(平成11年4月2日以降生まれの子)を 扶養している人
- 2. 世帯全員が平成28年分所得税非課税の人 (16歳未満の扶養親族がいる場合は、扶養控除があると仮計算した結果で判定)

申請(更新)に必要なもの

- ①健康保険証 ②印鑑(認印) ③特別医療費受給資格証(持っている人のみ)
- ④前住所地が発行する平成29年度(平成28年中) 所得課税証明書(所得と控除の内訳が分かるもの) ※平成29年1月2日以降に伯耆町に転入した人のみ

申請(更新)窓口

本庁舎:健康対策課 健康増進室 分庁舎:分庁総合窓口課

健康対策課 健康増進室 TEL:0859-68-5536

▼特別医療費受給資格証 (紙は水色)

HERBETSHERE INTRI

上記要件に該当しなかった人へ

上記に該当しないひとり親家庭の 人で、児童扶養手当の所得制限未 満の人は、伯耆町医療費助成制度 に該当する場合がありますので、 お問い合わせください。



ALT通信®

このコーナーは、ALT(外国語指導助手)による エッセイを、英語と日本語で紹介します。

I decided to camp every single day of my trip to Nagasaki-ken. On my first day in Nagasaki City I had seen a small park where children had been playing and I decided to set up my tent there. It was late but I was frightened. Trapped inside my small tent, every sound of the outside world takes on a monumental impact. Breath is like a heavy gale, a bike tire screeches like an explosion.

Afterward I went to Unzen. I climbed a mountain. Night fell. I set up my tent in the mountains.

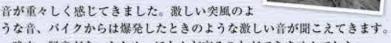
I woke around 3AM. Two inoshishi pressed their snouts on the narrow walls of my tent and searched it. I lay silent, not breathing. After ten long minutes of sniffing every inch of my tent and growling, they left.

Every night I was in my tent, awake to the world and hearing sounds I'd forgotten. I heard the whispers of cold wind in the grass, I heard the unfolding song of the birds in call and counterpoint to each other; I heard the tremor of my heart steadily beating blood. When I came back - what part of the journey remained? It was that. The recognition of life and air. The weight of breath in the lungs. The belief in a soul between the bones.

Fear reintroduced me to myself.

Peter

今回の長崎旅行では、毎晩キャンプをして生 活しようと決意しました。長崎市に行った最初 の日は子どもたちが遊んでいた小さな公園にテ ントを設置しようと決めました。小さなテント の中にじっとしていると、外の世界のすべての 音が重々しく感じてきました。激しい突風のよ



前逐神社前

一晩中、騒音があったため、ほとんど寝ることができませんでした。 そのあとは、雲仙市に行きました。ぼくは雲仙市にある山にのぼりま した。夜が来たので、この日はその山にテントを張りました。

ぼくは3時ごろに目が覚めました。2匹のイノシシが突き出た鼻で、 テントの薄いかべにむけて突進してきました。ぼくは息をせず、静かに 横たわっていました。約10分間、かれらはぼくのテントの隅々までにお いをかぎ、そしてうなり声をあげてかれらは去って行きました。

毎晩ぼくはテントで過ごし、聞こえてくる音で朝目覚めました。ぼく はこの体験を忘れることができません。野原から聞こえる、風のつめた くてささやくような音、鳥たちがお互いを呼び合っているような歌声、 自分の心臓がきちんと鼓動している音を毎日感じました。



ぼくが今回の旅行からどんなことを感じたか というと……「生命」と「空気」の再認識です。 自分の肺に取り入れる「空気」の重量、自分の 体の中にある魂の認識。

自然に対する畏れや畏敬の念が、自分という ものをもう一度考える経験を与えてくれました。

ピーター